



東校だより

11月号

令和4年10月31日
横浜市立東小学校
校長 保科 桂子

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/azuma/>



心を一つに 東っ子

ふくこうちょう いけだ なおこ
副校長 池田 尚子



今年度の運動会は、3年ぶりに全校児童と保護者（1名）が一堂に会して行うことができました。一昨年度は二度の雨天順延による平日開催、昨年度はブロックごとの分散開催と、従来の運動会がなかなかできない状況が続いていたので、子どもたちもこの日を一層心待ちにしていました。運動会のスローガンは、「一心同体～心を一つに全力投球～」。演技や応援で息を合わせたり、動きを合わせたりして、一人ひとりが目標に向かって練習に励んできました。

いよいよ本番の日。前日までの雨でグラウンド状況が心配されましたが、予定通りにスタートしました。開会式では、東小オリジナルの「運動会の歌」を歌いました。「がんばれ がんばれ あずま ちからを だそうよ あずま ...」親しみやすい歌詞とメロディーは、平成9年の在校児童が作ったそうです。また、「東っ子体操」は今年度の新作です。体の各部位を伸ばしたり、かけ足をしたりして、体力アップを目指そうと、学校保健委員会で動きを考えました。「みんなで踊ろうのげやまぶし野毛山節」は、東小の伝統プログラムです。東小の野毛山節クラブは現在約30名の児童が参加し、毎月1回放課後に練習しています。指導していただいている相澤様とクラブの児童を中心に、今年度はみんなで一緒に踊ることができました。普段の学校生活でも、全校で一つのことに取り組むことと自体が難しい中、歌・体操・踊りで一体感が生まれました。

各学年の演技も素敵でした。1・2年生の「飛び出せ秘密道具！ DADADA ダンス！」は、ヒップホップのようなダンスです。2年生が1年生に動きを教えたり一緒に踊ったりしながら、いつも楽しく練習していました。音楽が流れると、自然に体が動き出し、笑顔があふれました。3・4年生の「最強フラッグ」は、4色の旗を振りながらいろいろな隊形に移動していく演技です。旗を振る音やウエーブの動きが心地よく、子どもたちの息がぴったりと合っていました。5・6年生の「東小ソーラン節」は、運動会のクライマックスです。全身を大きく使った動きに赤い法被も美しく舞いました。下級生の憧れ、さすがでした。また、今年は、リレーや応援合戦も行いました。代表児童の活躍する姿と周りのみんなが応援する姿が一つになって、会場も盛り上がりました。

コロナ前の運動会では、卒業生や地域の方々が大勢集まり、温かい応援をいただいていたと聞いています。今年も地域の皆様や保護者の皆様にも制限なくご参観いただきたかったところでしたが、保護者の方を含めて人数の制限をせざるを得なかったことを、学校としても心苦しく思っています。子どもたちが多くの人と関わり合い、様々な活動を自由にできたらという願いは、私たち教職員も同じです。このような状況でしたが、PTA委員の皆様やボランティアの皆様には、受付や会場内外の見守り、準備や片付けなどでたくさんのご協力をいただいたおかげで、安全に滞りなく実施することができました。これまでの東小の伝統を受け継ぎながら、新しいスタイルを融合して行った運動会になったと思います。本当にありがとうございました。